

父の思い出

水谷眞次郎

前回、母の思い出をテーマにした高津 ZOOM 会のおり、「言葉足らずのメロデー」という歌謡曲にふれた時、太田隆次様がわざわざ YouTube でこの曲を再現していただきました。

歌詞の一節に「強い母、優しい父」とあり、思わず涙腺が緩んだことを報告しましたが、自分が晩年の父と同年代となり、不器用にも懸命に生きた一人の男の生きざまに思いをはせる年齢になったせいだと思います。

父は今の岐阜羽島駅近くの農家の次男坊で、尋常高等小学校を卒業と同時に大阪の商家に奉公に出され、隣村の娘と見合い結婚し、上に女4人と下に男3人を設け、おかげで兵隊には、誰も取られずに済んだと人に羨まれたそうです。ちなみに私は下から2番目の次男です。

45年3月の大空襲で一切が焼失、近鉄沿線の瓢箪山に何とか疎開先を見つけましたが、無職の父を叱咤激励して切り盛りをしたのは強い母でした。

当時父はすでに相当年配でしたが、実直を絵にかいたような人で、戦後の混乱期を渡り歩く才覚はなく、黙々とわずかに借り受けた畑を耕しておりました。当時中学生だった私は、父に頼まれればいつも手伝いに畑に出ていました。父が畑の片隅で 飯盒で作ってくれた雑炊の味は、初めて父と2人きりで話しかけた思い出と共に、今も時折頭をよぎります。

時代が流れ、我が家も昔の姿を取り戻し、それほど仲が良くなかった父母も家督を子供に譲ってからは、ともに信心深い余生を仲良く過ごし長寿を全うしました。

不思議なのは、この父が夢中になって応援していたのが力道山だったことです。

